

会 議 録

1 会議の名称

令和6年度第1回茨城県央地域ウェルネス推進協議会

2 開催日時

令和6年8月1日（木） 午後2時から午後2時45分まで

3 開催場所

水戸市役所4階 政策会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

上地勝，村井文江，金澤秀房，青木かを里，多田厚史，島川清，飛田和明，黒澤春美，稲川敏夫，高林修，大川きみ子，萩谷登喜子，佐藤栄子

(2) 事務局（水戸市）

小川佐栄子，堀江博之，高安克子，春日剛，昆節夫，西山拓海

(3) 関係市町村

（笠間市）渡部鉄平，（ひたちなか市）西野貴弘，佐藤由季，（那珂市）玉川祐美子，飛田健，（小美玉市）太田由美江，塩沢寿美子，（茨城町）大信雅一，綿引勇太，（大洗町）本城正幸，（城里町）木村和恵，（東海村）佐藤重雄

5 会議資料の名称

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 資料1－1 株式会社WELL BE INDUSTRYと連携した社会実験について
- ・ 資料1－2 株式会社WELL BE INDUSTRYと連携した社会実験の周知に関する調査結果
- ・ 資料2 スポーツ・健康フェスティバルにおける社会実験について
- ・ 参考資料1 株式会社WELL BE INDUSTRY会社概要（ガバメントピッチ時提供資料）
- ・ 参考資料2 株式会社WELL BE INDUSTRY プレス案

6 発言の内容

【事務局】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和6年度第1回茨城県央地域ウェルネス推進協議会を開催いたします。

本日は、御多用の折にもかかわらず、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日は、委員18名のうち、13名が出席しております。____委員、____委員、____委員、____委員は、所用のため欠席との連絡を受けておりますので、御報告いたします。

続きまして、委員3名に変更がございましたので、御紹介させていただきます。本日は、所用により欠席となっておりますが、____、____の____様でございます。まだ見えていませんが、____、____の____様でございます。続いて、____、____の____様でございます。

それでは、これより議事に移らせていただきます。議事進行は、____会長にお願いしたいと存じます。____会長、よろしくお願いいたします。

【会長】 皆さんこんにちは。暑い中お集まりいただきありがとうございます。

議事に先立ちまして、本日の会議録署名人につきましては、____委員、____委員にお願いいたします。

それでは早速、議事に入ります。議題(1)、令和6年度社会実験について、ア、株式会社WELL BE INDUSTRYと連携した社会実験について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 事務局でございます。それでは、資料1-1と1-2に沿いまして、議題(1)のア、株式会社WELL BE INDUSTRYと連携した社会実験について、御説明いたします。

まず、1の連携企業に関するこれまでの経緯でございますが、令和5年の12月にオンラインで開催されましたガバメントピッチにおいて、圏域の健康課題を発表いたしまして、今年度に共に社会実験を行う企業を募集いたしました。

その結果、提案のあった15の企業について、昨年度末の令和5年度第2回協議会においてお示ししたところでございます。そこから、令和5年度末に提案のあった企業のうち、事務局の水戸市のほうで5社と面談を行いまして、そのうち、LINEというツールで手軽で取り組めることができ、働き盛り世代の方にも参画しやすいという理由から、株式会社WELL BE INDUSTRYと連携することといたしました。今年度に入りましてから、このウェルビー社と協議を行ってきまして、今年度の社会実験の内容について協議を進めて現在に至るところになります。

続きまして、ウェルビー社についての説明になります。(1)の会社概要といたしましては、「健康を考えるきっかけの提供」を目指すヘルステックカンパニーということで、2021年の9月に設立された新しい会社になります。詳細については、参考資料1を後程お目通しいただければと思います。

(2)「WELL BE CHECK」についてになります。こちらのウェルビーチェックというものですが、ウェルビー社が提供しているLINE上のアプリになります。これは、50の質問に回答いたしますと、自身の心身の未病状態を数値化して、AIに健康相談もできるというものになっております。チェックを行う本人にとっては、自

身の未病状態を自覚してもらうことで、健康行動変容のきっかけづくりとなります。情報を集めて管理する我々にとっては、参加者の行動変容ステージの分布や健康課題の分析データというものを得ることが期待できます。

この説明ですと少しイメージがしづらいので、2～3ページ目を御覧ください。スライドを抜粋して載せているものになりますが、まず2ページ目の上段です。こちらはウェルビーチェックのイメージですが、このようにLINEを開いて、友達登録をするような形でウェルビーチェックを登録いたしまして、会話をするような方式で50問の質問に対して回答をしていくというイメージです。2ページ目の下段を御覧いただきますと、50問チェックをすると、スコアが出てきて、その結果次第でAIに相談ということもできます。LINEなので、新規に無理やり何かメールアドレスを入れなければいけないとか、住所を入れなければいけないとか、そういった登録は特に無く、チェック料金も無料となっております。3ページ目の上段、50問のチェックを行った上でスコアが出るというお話をさせていただきましたが、それがいくつかのカテゴリごとに細かく出るようなイメージです。トータルのスコアだけではなく、栄養や睡眠といったジャンルで分けたスコアも出ます。また、必要なビタミンといったものも別に表示されますが、例えばビタミンAとは何か、ビタミンBとは何か、何を摂取すればいいのかという情報も、LINE上でコメントというか、チャットを入れますと、それに対して、ビタミンAとは何か、どういうものを摂ればよいかというところまで教えてくれるというものになっております。3ページ目の下段は、ウェルビーチェックの特徴というところになっています。

4ページ目に移りまして、3、ウェルビー社と連携した社会実験についてということで、今年度に行う社会実験の内容についてになります。こちらは、ウェルビー社と現在協議を続けているところで、細かいところに関しては、もしかしたら今後変更する可能性がありますことを御承知おきください。

(1)の概要ですが、令和6年度にウェルビー社と行う社会実験を、「茨城県央#FeelHealthプロジェクト」と題して、社会実験として行いまして、圏域住民に先ほどのウェルビーチェックを利用してもらい、そこで得られるデータから、圏域が抱える健康課題等を分析して、次なる働きかけにつなげていくというものになります。目的としては、LINEというツールを利用して健康づくりの取組を行った際の住民の反応や参加率といったものを確認して、ICTを活用した健康づくりのそもそもの有効性について把握するというのが1つ目でございます。

2つ目に、このウェルビーチェックを活用しまして、現時点の圏域住民の方々の行動変容ステージの分布を確認して、見える化させるといった目的がございます。

3つ目は、上記の分析から、圏域が抱える健康課題等を分析して、特に今回のテーマとして働き盛りの方々へというところがありますので、30歳代から50歳代というところが特にターゲットとしてありますが、こちらの方々の行動変容に向けて、今後どのような施策を行うべきか、検討を行えるように検討材料としたいというところがあります。

下に四角で囲んでおります行動変容ステージについて補足させていただきます。人が行動や生活習慣を変えるに当たりまして、行動を変えようとはあまり思っていない「無関心期」、半年以内に行動を変えようと思っている「関心期」、近いうちに

行動を変えようと思っている「準備期」，行動を変え始めた「実行期」，行動を変えて半年以上が経過している「維持期」という5つのステージに分かれるというモデルになります。今回の社会実験では，ウェルビーチェックを通しまして，圏域の住民の方々が主にどこのステージに分布するのかといったことを把握したいと考えております。

もともとガバメントピッチの時点では，圏域の住民の健康づくりを「運動」というテーマでアプローチするのはどうかというお話がありましたが，例えばそれは，「準備期」あるいは「実行期」にある人たちに運動のセミナーを案内するということが有効でも，もしかしたら「無関心期」の人にはなかなか届きづらいということもありまして，今後どういった健康づくりを進めていくかは，このステージによっても異なるため，まずは圏域住民のステージを把握することから始めて，そこに潜む健康課題や，今後どういった取組を行うことが効果的かというところを分析することを，今回目指していくということになっております。

(3)の対象者に関しましてですが，ウェルビーチェックを回答していただく方ということになります，こちらは圏域の住民の皆様といったことになります。

(4)の実施期間，ウェルビーチェックを回答していただく期間になりますが，令和6年9月9日から10月31日までの約2か月間を予定しております。

続きまして，5ページ目に移ります。(5)の実施内容というところで，ウェルビー社と連携した社会実験の細かい内容になっております。まずは，とにかく住民にウェルビーチェックを行っていただくことが重要であるため，各自治体で周知を行っていくというところです。

ここで資料の1－2を御覧ください。こちらは各市町村でどういった周知が可能かというものをまとめた資料になりまして，ここから少し各自治体様への御協力をお願いも含めて御説明させていただきます。まず，ウェルビーチェックはLINEのアプリになりますので，一番はやはり自治体の公式LINEを使った周知が大きいと思います。次に，広報紙について，調査した当時と少しスケジュールが変わってしまったところがありますが，実施期間前かあるいは実施期間中に，可能な発行号数で掲載をお願いしたいと思います。また，ポスターは8月下旬に完成予定なので，完成しましたら水戸市から各市町村に配布いたします。その後，庁舎ですとか，自治体の健康増進施設といったところと，あとは協力可能な商業施設等に掲示をお願いしたいと思います。

資料1－2と一緒につけておりますカラーのものは，ポスターとチラシの初稿というかラフ案になっております。イメージとしてはそのような形でございまして，細かい内容に関しては，ウェルビー社と校正中になっております。

そのほか，自治体内の職員への周知ですとか，商工会議所さんを通した従業員の方々への周知，その他可能な範囲で周知をお願いしたいと思っております。この周知に関しましては，各自治体の皆様にはもう少し詳しい周知の協力依頼というものを，協議会后にメールを送らせていただきたいと思いますので，よろしく願いいたします。

こちらの周知を行いまして，次が，イの「WELL BE CHECK」の実施というところになっております。少し細かい話になりますが，実は今でもウェルビーチェック

というのは、ネットで検索するとアクセスができますし、チェックもできるという状態になっております。ただし、それは一般用のものでありまして、今回はウェルビー社のほうに、県央地域専用のものを作成してもらう予定です。チェックの質問内容自体は同じですし、基本的にできることも同じですが、表示されるアンケートが専用のものになっていたり、この県央地域版のウェルビーチェックから行っていただかないと、データの取得や分析ができなくなります。そのため、周知の段階で、県央地域版専用のURLやQRコードを使用して、そこからリンクしてもらってウェルビーチェックを行ってもらうという予定です。通常のウェルビーチェックと、県央地域版で少し分けて、きちんとデータを取れるようにするというような考えになっております。

その後、ウとして実施結果の分析というところで、下に四角で囲っている箇所ですけれど、市町村別、年齢別、性別といった形で、スコアをまとめていただこうかと考えております。こちらは回答が終わった後にウェルビー社のほうで作業をしていただくという予定です。

(6)の費用につきまして、基本的にウェルビーチェックを行っていただく住民の方々は無料で行うことができます。事務的に、本社会実験における委託料として、9市町村からウェルビー社に支払う金額としては約20万円程度となっております。本来ですと、ウェルビーチェックを自治体で行うと、システムの管理料ですとか、コンサルの費用で数百万円単位で金額がかかるところなのですが、今年度は社会実験というトライアルというところもありまして、特別にこの金額で実施していただけるということになっております。

最後に、今後のスケジュール案についてになります。8月初旬、実施期間前から実施期間中にかけて、ポスターの掲示ですとか広報紙ですとか、そういったところを使って周知を行います。9月から10月には、実際にウェルビーチェックを住民の方々に行っていただくというターンになりまして、それが終わって、年内ぐらいで結果の分析というものをウェルビー社のほうにお願いしたいと考えております。年が明けまして、今後のその先に続く実証実験の内容の検討ですとか、あとは2月にもう一度この茨城県央地域ウェルネス推進協議会を開催させていただきまして、その時に、ウェルビーチェックを行った結果がどうだったのかといった報告ですとか、さらにその次の年度以降にどういったことにつなげていくかといったものに関して、御報告及びお諮りをしていただきたいと思いますと考えております。

議題(1)のアについては以上になります。

【会長】 ありがとうございます。ただいまの内容につきまして、御質問、御意見等がございましたらお願いいたします。

____委員。

【____委員】 _____の____です。ターゲットとするのは先ほどお話があったとおり、30代、40代ですね。最初それがなかったので、どのぐらいかなと思っていましたが、非常に良い施策だと思います。健康日本21という国の政策で、いわゆる治療から予防へというような形で、いろんな部分を進めていくということで、実際、予防という点では各自治体が特定健診などをどんどん導入していますが、なかなか各自治体とも受診率がほとんど平行状態で向上しないというところもありますよね。いわゆ

る関心がない人も多いし、健康診断で何か病気が見つかったらやばいと思う人もいます。そういうところでこれは一つの、そういう未病の状態でもあるし、また、場合によってはもうちょっと病気があるかもしれないよというのを、これで判断していただけるのは非常に便利でいいなと思っています。

ただ、これはちょっと私わからないのですが、やはり今いろんなアプリケーションがいっぱいありまして、いろんなセキュリティとかそういう問題がすごくクローズアップされており、データがどんどん出てしまうとかということがあるんですけども、この登録に関しては、各個人が、例えば名前とか、生年月日とか、その辺を入れるんでしょうか。それから、いわゆる登録するに際しては大抵そうですけども、いわゆる確認事項というのは、それに同意しないと進まないというのが結構あるんですけども、そういう体制をとってきちっと管理されるのかどうか、その辺をちょっとお聞かせください。

【会 長】 ありがとうございます。セキュリティについて、何か事務局の方からございますか。

【事務局】 はい、ありがとうございます。本当に細かいところは今ウェルビー社とも確認しているところですけども、原則として、住所とか生年月日とかを特に入れる必要はないものになっております。もともとLINEというものがあって、その友達登録みたいな形ですので、そこに改めて、住所や生年月日を入れなくて大丈夫です。あるとすれば、アンケートが最初にあるんですけども、年代とか、性別とか、今回は県央地域版ということなので、特別にお住まいを、水戸市、ひたちなか市、笠間市というふうに市町村レベルでは選ぶようにはなりますが、さらに細かい情報は取らないことになっています。あとは今確認中ですけども、そのLINEにもともと登録をしている情報といいますか、例えば電話番号とか、そこをどこまでウェルビー社のほうで取得することがあり得るのか、基本的には必要はないはずなので取ることはないと思うんですけども、そこは今確認中です。ただ、原則として、個人が特定されるまでの情報というのは、特に市民の方々も心配はないようなシステムになっていると思います。

【___委員】 ありがとうございます。どうしてもそういうところが不安な方も非常に多いと思います。今やたらといろんなSNSで介入されたり、無料だと言っていたのが、結果的に有料だどうのに引っ張られて、危険に巻き込まれるということが非常に多発しているので、その辺の安心感をきちんと与えていただければ、これはもう、行政も一体になってやっていることだから大丈夫だなと。個人情報もその程度だから入れることもないということになると、受け入れやすいのかなというふうに思います。ありがとうございました。

【会 長】 はい、___委員どうぞ。

【___委員】 ひたちなか商工会議所の___です。

これサンプル数が勝負かなと思っているんですけども、事務局としてはどのぐらいのサンプル数があれば、データとして有効と考えていますでしょうか。

【事務局】 はい、ありがとうございます。ウェルビー社のほうから言われている最低限のサンプル数、この数がないと分析ができないと言われているのが300です。ただ300はさすがに行くかなと思っておりまして、目指したいのは、3,000ぐらいはいきたい

と思っております。圏域の住民すべて合わせますと70万人というところですが、一番そのターゲットとしたいLINEのアクティブユーザーというか、自治体公式LINEに登録しているユーザー数を合わせると、12万ぐらいというところで、そこから数%やっていただくと数千という形になると思います。目指せ1万とは思いますが、実態としては3,000ぐらいはいきたいなと考えております。

【____委員】 興味のある方には届くと思いますが、無関心な方にも参加していただくような、なにか面白い作戦があれば——よくあるのは、アプリですと、参加するだけでポイントバックがあるようなのがつくと、別に興味がなくても、とりあえず入力してみるかぐらいの感じで参加できるのかなという。費用もかかるでしょうけども、そういったものもあるといいなと思っております。

【事務局】 はい、ありがとうございます。実は、ポイントの部分に関してですけれども、今もウェルビーチェックではポイントの機能がありまして、チェックを1回やると何ポイントとか、あとはおみくじ機能みたいなのがありまして、そこで毎日引くと何ポイントとかというのがあるんですけれども、それというのが、結構長いスパンでチェックをしていかないと、あまりポイントが貯まらないものになりまして、最終的にはポイントが貯まるとアマゾンギフト券500円などがもらえるのですが、今回の2か月という期間ですと、そこに至るまではなかなかいかないというところが現実としてはあります。一応機能としてはありますが、今回は使えないというのと、あとはその分の予算の部分がやや厳しいというところで、ポイント機能自体はあるんですけれど、ほぼ使えないかなというところになっています。

【会長】 ほか、いかがでしょうか。____委員。

【____委員】 _____の____と申します。

先ほどの説明で、これ料金が安いからウェルビー社と連携するということになりましたけれども、私たちが全体的に説明したり周知するのを、1社だけに固定してしまってよろしいのかどうか、その辺ちょっと確認したいのですが。

【会長】 今回はウェルビー社に絞っていった経緯を簡単に説明していただけますと。

【事務局】 はい、わかりました。まず、最初の経緯というところに関連するお話になります。まずはガバメントピッチというもので、オンライン上で約300の企業に対してのプレゼンを行いました。それに対して、うちではこんなことができますよという提案がまず15社あったというところがございます。昨年度末に行った前回の協議会で、その15社について簡単に説明させていただきましたが、実態としては、15社提案があった中でも、予算の関係ですとか現実的にできる・できないというところもありまして、そこから5社に絞られたんですね。そこで、5社と実際にどういう社会実験ができるのか、あるいは料金がどれくらいでできるのか。現実的に実施が可能か不可能なのかというところを確認するために、水戸市のほうが事務局を代表いたしまして、それぞれの企業と面談を行いました。5社と面談して、予算的に厳しかったり、規模が大きすぎるかなというところがありまして、最終的には選定されて、結果残ったのが今回のウェルビー社ということになります。

最終的に1社に絞られ、まずはその1社と今回やってみようというところがありますので、今回はそのウェルビー社と社会実験を行うことを決定したというような形でございます。

【会 長】 よろしいでしょうか。

【___委員】 その説明はよくわかっているのですが、私たちがいろいろ説明したり、周知したりするときに、ここの中では今説明があったから分かるのですが、実際にこのウェルビー社だけを宣伝して、何か問題とかが起きないのか、それがちょっと心配なものですから、御質問しました。

【会 長】 この会社について、宣伝するというよりは、この会社のアプリを使っていただいて、データを集めていただいて、そのデータを県央地域で活用するというふうな、そういったイメージでよろしいかなと思いますけれども。

【___委員】 それはわかるのですが、結局、このウェルビー社という会社を皆さんに周知するわけですね。それで問題が起きたりしないのかなということをやっと心配しておりますので、その辺を御質問させていただいたのですが。

【会 長】 事務局のほうからございましたら。

【事務局】 そうですね、例えばポスターのほうを御覧いただきますと、今回そのウェルビー社のCMといいますか、完全にそういうわけではなくて、例えば、県央地域の皆様へのお願いというようなことで、茨城県央地域とウェルビー社がタッグを組んで、健康づくりに取り組むといったイメージであります。そのため、この1社だけを特別に取り立てて営業に協力をするといったものではなくて、共に社会実験を行っていくパートナーとして打ち出しているところになりますので、1社特別に取り出して、そこだけひいきして何かを取り出したというわけではないので、そこに関しては特に問題がないと捉えております。

【___委員】 はい。わかりました。ありがとうございました。

【会 長】 ___委員。

【___委員】 ___の___と申します。

ただいまの事務局の説明とか、とてもわかりやすく、よくわかりました。それにとってもいい企画だと思っております。そのやり方のところで、LINEというお話が出ましたが、一覧表を見ますと、城里町がLINE周知不可となっているので、この場合どうしても、参加はしたいですけど、どんな形になるのでしょうか。ちょっとわかりませんので、お聞きしたいと思います。

【事務局】 城里町さんは確か調査の段階では、公式のLINEがないというようなお答えだったと思うのですが、合っていますか。

わかりました。基本的には、市町村が持っている公式のLINEに登録をしている住民の方々に対して、こういうチェックができますよとURLをそのまま連絡して、そこをタップするとそのままウェルビーチェックにつながるようにしようと思っておりますが、ただ、それが無いからといって全くできないというわけではなくて、今回ポスターもありますし、広報紙も、なるべくそれぞれの自治体さんに御協力いただこうかなと思っておりますので、そこから読み取ってチェックをするといったことも可能でございます。

【___委員】 参加自体は、個人の自由ということになるのでしょうか。

【事務局】 はい。その認識です。絶対にやらなければいけないといったものではなく、あくまでもお願いといいますか、興味がある方々にぜひやってほしいというところがあります。ただ、先ほどもお話ありましたように、回答をどれだけたくさん得られる

かというところも勝負になりますので、そういったところでは周知のほうを頑張っていきたいと考えております。

【___委員】 そうすると、結果は何人になるとかそういう予測はできないわけだと思います。広報活動をやってみた結果が、何名ぐらいの参加者が出たっていうことに結果としてはなるわけですね。初めから何人募集しますとかということではないわけですね。

【事務局】 おっしゃる通りです。

【___委員】 わかりました。ありがとうございました。

【会長】 おそらくスタートして、回答の人数を見ながら、もしかしたら伸びがちょっと悪ければ、広報周知を再度するのかなと思っております。

【事務局】 ちょっと補足させていただきますと、LINEでの周知もありまして、もし可能であれば、複数回周知をかけたりしたいと考えております。また、今回そのLINEという取組がそもそも有効なのかどうかも確認してみたいというところが目的の一つとしてありまして、実は、LINEから入った人、チラシから入った人、広報紙から入った人、ポスターから入った人といったように、どの媒体から、ウェルビーチェックをやっているのかといったところもわかるようにしたいなと思っております。その結果として、実はやっぱりチラシとかポスターとかアナログな方法のほうの方が有効だったよねとか、あるいはやっぱりLINEでやると、すごくたくさんの方が参加してくれるよねとか、そういったところも、この社会実験の中で、数として出していきたいというふうに考えているところでございます。

【会長】 そういった基礎的なデータを取ることによって、今後の健康づくり推進のための広報活動にも生かせるのかなというふうに思います。
ほかに。はい。___委員。

【___委員】 _____の___です。これ、県央地域版ということで、使用参加期間が一応決まっているということで、この参加してくださった方たちは、この期間が終わったら、そのアプリはどうなるのでしょうか。

【事務局】 そのまま使用できます。ただし、単純に我々のほうに入ってくるデータとしてはもうなくなるというか、その期間中のデータだけを取って分析をするのですけれども、ウェルビーチェック自体はそもそも一般用も今までもありますので、継続して住民の方が使っていくということが可能です。

【___委員】 住民の方は、実証実験だと思わずに入ると思うので、そのまま使えるのだったらそのほうがいいのかと思ったのと、あとの50問というのが、結構多いかなという感じもするんですけど、例えば50問全部答えなかったら、もう全然データにもならないんでしょうか。

【事務局】 はい。もし本人というか、住民サイドが自分でやってもらう時に、50問全部答えないと結果までは出ません。それを管理する我々側、その途中結果まで見られるのか、カウントしないのかちょっとわからないのですけれども。

【___委員】 もう既存でやっているのが50問だと思うので、その県央版だけ減らすとかというのは難しいかもしれないですけど、50問は大変かなとちょっと思いました。

【事務局】 確かに、ややハードルがあるかなというところなんですけど、実際にそのチェックをしていくと、自分がやってみたら3分ぐらいで一応は終わりましたが、ただ、それでも3分はかかるかなというところになります。そこはちょっとややハードル

があるかもしれません。

【会長】 ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。また何かございましたら、後ほど時間がございますので、そちらで御意見、御質問等いただければと思います。

本件につきましては、LINEを使って個人が手軽に参加できる、今年度新規の社会実験となります。なるべく多くの方に参加してもらえるように、各自治体の皆さんにおかれましては、広報媒体等を通じて、住民の方への周知をお願いいたします。委員の皆様方におかれましては、ぜひ周知ですとか御参加について、御協力くださいますようよろしくお願いいたします。

それでは次の議題に移らせていただきます。

イ、スポーツ・健康フェスティバルにおける社会実験について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、スポーツ・健康フェスティバルにおける社会実験について、御説明させていただきます。右上に資料2と書かれたものを御覧ください。

本件につきましては、昨年度に引き続き実施するものでございます。

まず、1の令和6年度スポーツ・健康フェスティバルについてですが、(1)日時としまして、令和7年1月19日の日曜日、時間は午前10時から午後3時までを予定しております。

(2)会場ですが、昨年と同様、アダストリアみとアリーナで行います。

(3)内容になりますが、まず、メインアリーナで、SOMPOボールゲームフェスタというイベントが同時開催しておりまして、スポーツ・健康フェスティバルについては、2つ目、3つ目の丸の内容になっています。まず、アクティビティコンテンツとしまして、サブアリーナでストラックアウトや輪投げ、ボッチャなど、体を動かす企画が開催しておりまして、ロビーで行います健康コンテンツの中で、昨年同様に、社会実験として実施していきたいと考えております。

2の社会実験についてですが、現在いくつかの企業さんと調整をしているところでして、こちらには、現在確定しているもののみ記載しております。

株式会社ジャパンヘルスケアによる、足の健康診断になりますが、こちらも昨年に引き続き、行っていただくものになります。内容としましては、まず問診票を記入していただいて、その後、理学療法士、義肢装具士などが機器を使って足健診を実施します。健診結果をその場で参加者に渡し、足の健康状態についてアドバイスをいたします。その後、別途相談が必要な方に対しては、水戸協同病院の協力によりまして、医師との相談窓口を設けて、必要があれば医療機関への受診を促すものでございます。

今年度は、その健診とは別に、足の3Dスキャンの実施を予定しておりまして、その実際の内容や運用の仕方については、現在、企業と調整しているところです。

参考としまして、昨年の様子の写真と、実績を記載しております。

今後につきましては、これ以外の社会実験の内容や、実際のイベントのチラシなどができ次第、委員の皆様や、各自治体の皆様のほうにお知らせしたいと思いますので、御承知おきをお願いいたします。説明は以上です。

【会長】 ありがとうございます。昨年、足の健康診断については大変好評で、だいぶ待ち時間もあったということで、今のうちからもスムーズに流れるように調整を進め

ているというふうなお話です。

もし差し支えなければ、こういったところと交渉しているということを、可能な範囲でよろしいので、もし何かございましたらお願いします。

【事務局】 はい。現在もう1社交渉しているところが、昨年のがバメントピッチの中でも提案していただいた歯っぴー株式会社という会社になりまして、アプリを使って、歯の様子を写真で撮って、それでその方の歯の状態を医師の目で見たらこういう状態ですという結果が表示されるというものを作っている会社です。

実際それを、このフェスティバルの中でどのように実施するかというのは、調整しているところなので具体的にはまだ決まっていますが、今のところはそちらの会社のほうも予定しています。

【会長】 そちらも大変興味がある内容かなというふうに思います。委員の皆様から何か御質問、御意見等がございましたら、よろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

日程も決まっております、来年の1月19日になるのですが、申し訳ないですが、私はもうこの日が入試と決まっております、昨年度というか、今年も参加できなかったのですが、来年も参加できないので、ぜひ委員の皆様方、御都合がつく方は参加していただいて、様子ですとか、御感想などを次回お聞かせいただければと思います。

よろしいでしょうか。それでは、事務局のほうから今後の予定等について御説明をお願いいたします。

【事務局】 はい。事務局になります。ちょっと御紹介が漏れていたものがありまして、参考資料2というところで、一つウェルビー社のプレス案というものをつけさせていただいております。周知は我々のほうでも当然行う一方で、ウェルビー社の方でもリリースという形で、茨城県央地域とやっていますよということを打ち出していくといったものになります。そのため、そちらのホームページにもこのような文言が掲載される予定ですよという参考の資料になってございます。

今回の協議会に関しましては、来年の2月頃を予定しております。先ほど御説明させていただきました、ウェルビー社との社会実験と、スポーツ・健康フェスティバルの社会実験の両方の結果が取りまとまっている時期かと思っておりますので、両方御報告させていただくとともに、今後の方針についてお諮りいただければと考えております。

事務局からは以上になります。

【会長】 ありがとうございます。委員の先生方から何か、前のこのウェルビー社との社会実験も含めて、何かございませんでしょうか。____委員。

【____委員】 ウェルビー社の件で、これはすごく良い仕組みだと思いますので、実際やった人は、結果的なものも見えるわけですね。トータルスコアとか体と心のバランス、そういうところが、人によっては、「俺ちょっとあれなのかな」と。そういうものを、なるべくなら特定健診につなげられないかと考えます。社会保険の方はたぶん会社単位でかなり健康診断をやられています、国保の方は非常に、先ほど言ったように受診率が低いですね。これをやったことによって、何か使った人が「ああどうしよう」と思ったときに、例えば、市の特定健診なども御利用くださいみたいな感じで持っていけないのかなというふうにちょっと思います。

【会 長】 そういったフィードバックについて、何かお話はありますでしょうか。

【事 務 局】 はい。ウェルビーチェック自体の中で、そこまでつなげることはやや難しいかなと思いますが、もし可能であれば、ウェルビーチェックをやっていただくその期間の中で、例えばその特定健診もやっていますよとか、そういった周知が、可能な範囲になりますと一緒にできればいいなと考えております。または、ウェルビーチェックを実際にやってみて、その結果が出て、来年度以降にさらにそのような周知を、特に無関心がやっぱ多いよねと、数としてこう出たよというようになれば、それに合った健診のアプローチですとか、そのようなものを今後考えていくことができるかなと考えております。

【__委員】 ありがとうございました。

【会 長】 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次回は、来年2月頃の開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の内容にかかわらず、御不明な点や御意見等がございましたら、事務局まで御連絡いただけるようお願いいたします。

それでは、私の進行はここまでとさせていただきます、事務局にお返ししたいと思います。委員の皆様方には、会議の円滑な運営に御協力いただきまして、ありがとうございました。

【事 務 局】 __会長，ありがとうございました。

それでは、皆様長時間にわたって御審議いただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第1回茨城県央地域ウェルネス推進協議会を終了させていただきます。本日は、ありがとうございました。